

平和を求めて

29

私の町の戦争跡

戦局悪化・・・
石油輸送路たたれ
松根油の大増産へ

一九四四（昭和19）年十月、最高戦争指導会議で「松根油等緊急増産対策措置要綱」が決定されました。戦局が悪化し南方の占領地（石油産地）からの石油輸送がたたれ航空機の代替燃料として松根油（しょうこんゆ）が注目されました。またドイツでは松の木から得た航空ガソリンを使って戦闘機を飛ばしているとの断片的情報が海軍に伝わってきました。

一九四五（昭和20）年

三月には松根油や松脂の増産が閣議決定され、農林省山林局には松根油課（戦後は特殊林産課に改組）を設置。全国に生産量が割り当てられ、市町村ごとに乾溜釜が設置されるなど、国を挙げての「松根油緊急増産運動」が展開されました。

松二百本で戦闘機が
一時間飛べる

これには、高齢者、女学

生や子どもらも、松の根掘り、松脂とり、乾溜釜までの運搬などに大量動員されました。「掘って蒸して送れ」、「二〇〇本の松根で一機の航空機が一時間飛べる」との標語も掲げられました。松根油とは、松の根を掘り起こし、チップ状に刻み、乾溜缶に入れて加熱して、気化した成分を冷却装置で松根油に液化させました。

実際の活用状況は
不明

またゴムの樹から樹液を採取する要領で、松の皮を剥ぎ、幹にV字型の切り込みをいれ、缶や竹筒をぶら下げて松脂を集め、精製する方法もとられました。この松の木に刻まれた採取跡が全国各地でも見られます。

東京では、井の頭公園内にある「井の頭文

高幡不動尊、井の頭文化園―いまも残る松脂採取跡

松の木に刻まれた戦争跡



V字型に刻まれた松
井の頭文化園



高幡不動尊の松



井の頭文化園で

化園」（有料）内に採取跡をいま残す松の木がいくつも見られます。また日野市の高幡不動尊の五重塔脇の山道を登りつめると採取跡の松の木を数本見つけることができます。

それぞれ陸軍と海軍で地域を分担し、関東七都県は海軍の担当になりました。日野では高幡の川崎街道沿いの七生農協のあった空き地で炉が築かれたそうです。これが実際にどの程度活用されたかは記録も残っておらず定かではありませんが、終戦後、米軍が実験用にジープの燃料として松根油を使ったが、数日でエンジンが止まって使い物にならなかったといえます。